

第2回 道の駅なると（仮称）指定管理候補者選定委員会 議事概要

日 時 : 令和元年7月23日（火）9:30～15:30

場 所 : 市役所本庁舎3階会議室

出席委員 : 7名

阪根 健二（鳴門教育大学院 教授・地域連携センター 所長）

佐竹 弘通（大津松茂農業協同組合 組合長）

田中 里佳（税理士）

谷 重幸（鳴門市 副市長）

中岸 敏昭（鳴門商工会議所 会頭）

西上 昭二（鳴門市 経済建設部長）

三木 義文（鳴門市 政策監）

[50音順 敬称略]

事務局 : 6名

鳴門市企画総務部事業推進監

鳴門市企画総務部特定事業推進課職員

鳴門市企画総務部財政課職員

応募団体 : 4団体

株式会社ダイナックパートナーズ

ノヴィル・ネオビエント共同事業体

株式会社TTC

ブエナピンタ株式会社

[応募表明受付順]

会議概要 :

1. 開会

2. 事務局よりプレゼンテーションや選定結果の公表内容等について説明

3. 審査

(1) 応募団体によるプレゼンテーション及び質疑応答

株式会社ダイナックパートナーズ

情報発信の方法や予算、応募団体が管理する同種施設の収支の状況、維持管理費及び開駅準備費用の内容、大津松茂産直施設との連携、道の駅なると（仮称）の収支計画と商圈範囲、応募団体が考える鳴門市の魅力とその活用策などについて質疑応答がなされた。

ノヴィル・ネオビエント共同事業体

収支計画や売上予想、指定管理料の考え方、情報発信の方法、大津松茂産直施設との連携、海産物の取扱い、道の駅なると（仮称）の集客に関する考え方や施策などについて質疑応答がなされた。

株式会社TTC

商圏範囲の考え方、駅長選定、本社のある関東から遠方にある道の駅なると（仮称）への支援体制、地元企業との連携や地域からの雇用、地域経済への波及効果、大津松茂産直施設との連携、応募団体が考える道の駅なると（仮称）で事業実施する際のリスクなどについて質疑応答がなされた。

ブエナピンタ株式会社

道の駅なると（仮称）のコンセプト、収益確保の考え方、大津松茂産直施設との連携などについて質疑応答がなされた。

(2) 採点

1位	1400点満点中	1134点（得点率81%）
2位	1400点満点中	961点（得点率68.6%）
3位	1400点満点中	838点（得点率59.9%）
4位	1400点満点中	753点（得点率53.8%）

道の駅を含めた同種・類似施設の良好な管理運営実績があり、地域特産物の活用や情報発信など、産業の振興や賑わい創出のための取組を通じた集客性の確保や訴求力の高い安定的な施設運営が期待できる点が特に高く評価され、各委員の評価点の合計が最も高く、全ての選定委員からの評価が一位であった、株式会社TTCが「道の駅なると（仮称）」の指定管理候補者に最適であると市に報告されました。

また、各委員の評価点の合計が基準となる6割を満たしており、株式会社TTCに次いで各委員の評価点の合計が高い、株式会社ダイナックパートナーズが次点候補者に適当であると市に報告されました。

4. 閉会